

61 平面上の $\triangle OAB$ で、 $|\overrightarrow{OA}| = \sqrt{2}$ 、 $\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OB} = 1$ となるものを考える。点 B から直線 OA に下ろした垂線と OA の交点を H とする。また t を実数とし、 $\overrightarrow{BP} = t\overrightarrow{BH}$ となる点 P をとる。 $\vec{a} = \overrightarrow{OA}$ 、 $\vec{b} = \overrightarrow{OB}$ とするとき、次の問いに答えよ。

(1) H は辺 OA の中点であることを示せ。

(2) \overrightarrow{OP} を \vec{a} 、 \vec{b} 、 t を用いて表せ。

以下において、P は $\triangle OAB$ の外接円の中心であるとする。

(3) $|\overrightarrow{OB}|^2 = x$ とするとき、 t を x を用いて表せ。

(4) $|\overrightarrow{OP}| = \sqrt{2}|\overrightarrow{OB}|$ を満たすとき、 $|\overrightarrow{OB}|$ の値を求めよ。

[金沢]

(1) 点 H が直線 OA 上の点であるとき、実数 k を用いて $\overrightarrow{OH} = k\overrightarrow{OA}$ と表すことができる。

$\overrightarrow{OA} \perp \overrightarrow{BH}$ のとき $\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{BH} = 0$ から

$$\overrightarrow{OA} \cdot (\overrightarrow{OH} - \overrightarrow{OB}) = 0$$

$$k|\overrightarrow{OA}|^2 - \overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OB} = 0 \quad (\because \overrightarrow{OH} = k\overrightarrow{OA})$$

$$2k - 1 = 0 \quad \text{から } k = \frac{1}{2}$$

したがって H は線分 OA の中点であることが示された。

(2) $\overrightarrow{BP} = t\overrightarrow{BH}$ は

$$\overrightarrow{OP} - \overrightarrow{OB} = t(\overrightarrow{OH} - \overrightarrow{OB}) \quad \text{から}$$

$$\overrightarrow{OP} = t\left(\frac{1}{2}\vec{a} - \vec{b}\right) + \vec{b} = \frac{1}{2}t\vec{a} + (1-t)\vec{b}$$

(3) 線分 OB の中点を M とする。P が $\triangle OAB$ の外接円の中心であるための条件は $OB \perp PM$ となることである。

$$\overrightarrow{OB} \cdot \overrightarrow{PM} = 0$$

$$\overrightarrow{OB} \cdot (\overrightarrow{OM} - \overrightarrow{OP}) = 0$$

$$\frac{1}{2}|\vec{b}|^2 - \frac{1}{2}t\vec{b} \cdot \vec{a} - (1-t)|\vec{b}|^2 = 0$$

$$\frac{1}{2}x - \frac{1}{2}t - (1-t)x = 0$$

$$x - t - 2(1-t)x = 0$$

$$(2x-1)t - x = 0$$

$$(2x-1)t = x$$

$x = \frac{1}{2}$ のとき、この式は成り立たないので

$$x \neq \frac{1}{2} \text{ となり } t = \frac{x}{2x-1}$$

◀ 「 $\overrightarrow{OH} = \frac{1}{2}\overrightarrow{OA}$ とすると $\overrightarrow{OA} \perp \overrightarrow{BH}$ が成り立つ」という証明は数学的には間違い。

◀ 基点を O とする位置ベクトルで表す

◀ 外心はそれぞれの辺の垂直二等分線の交点

◀ 割り算するとき 0 で割り算しないか確認

(4) $|\overrightarrow{OP}| = \sqrt{2}|\overrightarrow{OB}|$ のとき $|\overrightarrow{OP}|^2 = 2|\overrightarrow{OB}|^2$ から

$$\frac{1}{4}t^2|\vec{a}|^2 + t(1-t)\vec{a} \cdot \vec{b} + (1-t)^2|\vec{b}|^2 = 2|\vec{b}|^2$$

$$\frac{1}{2}t^2 + t(1-t) + (1-t)^2x = 2x$$

$$\frac{1}{2}\left(\frac{x}{2x-1}\right)^2 + \frac{x}{2x-1}\left(1 - \frac{x}{2x-1}\right) + \left(1 - \frac{x}{2x-1}\right)^2x = 2x$$

辺々 $2(2x-1)^2$ ($\neq 0$) をかけて

$$x^2 + 2x(2x-1-x) + 2(2x-1-x)^2x = 4x(2x-1)^2$$

$$x^2 + 2x(x-1) + 2(x-1)^2x = 4x(2x-1)^2$$

$$14x^3 - 15x^2 + 4x = 0$$

$$x(14x^2 - 15x + 4) = 0$$

$$x(2x-1)(7x-4) = 0$$

$x=0$ とすると $t=0$ から $\overrightarrow{BP} = \vec{0}$ となり, B と P が一致することになり適さない。したがって $x \neq 0$ および $x \neq \frac{1}{2}$ から $x = \frac{4}{7}$

であり, $|\overrightarrow{OB}| > 0$ から $|\overrightarrow{OB}| = \sqrt{\frac{4}{7}} = \frac{2}{\sqrt{7}}$

◀ 条件を t, x を用いて表す。最終的に 1 文字の条件式になる。

62 数直線上の原点 O を出発して、1 から 6 が書かれた 1 個のサイコロを投げるたびに、3 の倍数の目が出たら 2、それ以外の目が出たら 1 だけ、正の方向へ進むものとする。このようにして、ちょうど点 n に到達する確率を p_n とする。 n は自然数とすると、次の問いに答えなさい。

- (1) p_1, p_2, p_3 を求めなさい。
- (2) p_{n+2} を p_{n+1}, p_n で表しなさい。
- (3) $p_{n+1} - p_n$ を n で表しなさい。
- (4) p_n を n で表し、 $0.752 < p_n < 0.76$ を満たす点 n を求めなさい。

〔長崎県立〕

説明のため 3 の倍数が出る事象を A 、それ以外の事象を B とし、 A となる確率は $\frac{1}{3}$ 、 B となる確率は $\frac{2}{3}$ とする。

- (1) p_1 について 1 回目に B となることなので $p_1 = \frac{2}{3}$

p_2 について 1 回目に A または 1 回目、2 回目ともに B となることでこれらは排反であるから、

$$\text{求める確率は } p_2 = \frac{1}{3} + \left(\frac{2}{3}\right)^2 = \frac{7}{9}$$

p_3 について 1 回目から 3 回目まですべて B または 1 回目と 2 回目で A と B が 1 回ずつとなることでこれらは排反であるから、求める確率は $p_3 = \left(\frac{2}{3}\right)^3 + {}_2C_1 \left(\frac{1}{3}\right)^1 \left(\frac{2}{3}\right)^1 = \frac{8+12}{27} = \frac{20}{27}$

- (2) 点 $n+2$ に到達するのは点 $n+1$ に到達しているとき B 、または点 n に到達しているとき A が起こることで、これらは排反であるから $p_{n+2} = \frac{2}{3}p_{n+1} + \frac{1}{3}p_n \cdots \textcircled{1}$

- (3) ① の両辺から p_{n+1} を引くと

$$p_{n+2} - p_{n+1} = \frac{2}{3}p_{n+1} + \frac{1}{3}p_n - p_{n+1} = -\frac{1}{3}(p_{n+1} - p_n)$$

これは数列 $\{p_{n+1} - p_n\}$ が初項 $p_2 - p_1 = \frac{7}{9} - \frac{2}{3} = \frac{1}{9}$ 、公比 $-\frac{1}{3}$ の等比数列であることを表しているので

$$p_{n+1} - p_n = \frac{1}{9} \cdot \left(-\frac{1}{3}\right)^{n-1} = \left(-\frac{1}{3}\right)^{n+1}$$

- (4) $n \geq 2$ のとき

$$\begin{aligned} p_n &= p_1 + \sum_{k=1}^{n-1} (p_{k+1} - p_k) \\ &= \frac{2}{3} + \sum_{k=1}^{n-1} \left(-\frac{1}{3}\right)^{k+1} \\ &= \frac{2}{3} + \frac{\frac{1}{9} \left(1 - \left(-\frac{1}{3}\right)^{n-1}\right)}{1 - \left(-\frac{1}{3}\right)} \end{aligned}$$

◀ 最初の数項を具体的に計算して、規則性を探る。

◀ 隣接 3 項間漸化式の特微方程式が 1 を解のもつときの解法

◀ 階差数列から一般項を決定

$$= \frac{2}{3} + \frac{1}{12} \left(1 - \left(-\frac{1}{3} \right)^{n-1} \right)$$

$$= \frac{3}{4} + \frac{1}{4} \left(-\frac{1}{3} \right)^n$$

これは $p_1 = \frac{2}{3}$ を満たす。

$$\text{条件 } 0.752 < p_n < 0.76 \text{ は } 0.752 < \frac{3}{4} + \frac{1}{4} \left(-\frac{1}{3} \right)^n < 0.76$$

辺々 $\frac{3}{4} = 0.75$ を引き

$$0.002 < \frac{1}{4} \left(-\frac{1}{3} \right)^n < 0.01 \text{ を満たす自然数 } n \text{ を求める。}$$

$$0.008 < \left(-\frac{1}{3} \right)^n < 0.04$$

n が奇数のときは満たさないので、自然数 k を用いて $n = 2k$ とし $0.008 < \left(\frac{1}{9} \right)^k < 0.04$

辺々の逆数を考えて $25 < 9^n < 125$

これを満たす自然数は $k = 2$ 、したがって $n = 4$

◀ 対数を用いず、細かい数进行评估する